

野菜の展望

昨年の5月の野菜は、四月上、中旬の低温、多雨、日照不足から一転、四月下旬から五月中旬の記録的な高温多照で干ばつとなり重量野菜中心に平年を大幅に下回る入荷となりました。今年は生育も順調で施設、露地野菜ともに平年並みの入荷が予想されます。また、県内産の野菜の品目入荷量も徐々に増えて、季節を彩るさまざまな商材が加わり賑わいのある売場となってきます。

季節商材の筍は石川産の入荷です。今年は表年にあたり、昨年を大幅に上回る入荷となります。梅は昨年と同様に今年も順調な入荷となる予想であり、古城（和歌山産）主体に小梅（佐賀・福岡・和歌山産）の入荷で、例年以上の入荷量を見込みます。ラッキョウは前半、高知・徳島産中心に後半より石川産の入荷も加わりますが、全体的に減少傾向と見られます。山菜類は石川産のワラビ・山ブキが出荷最盛期を迎え、カタハも増量となります。

根菜類の大根は千葉主体に九州産、下旬からは石川産の春大根の入荷で、全体的には例年並の入荷が見込まれます。石川産については、作付面積減少のため、今年は少なめの入荷量となりそうです。人参は徳島産に加えて中旬より岐阜産も入荷します。

葉茎菜類のキャベツは愛知主体に石川・茨城・宮崎・鹿児島産の入荷で、例年並みの入荷が予想されます。白菜は茨城産主体に下旬から長野産の入荷が見込まれます。葱は埼玉・群馬産（春葱）主体に九州各地より入荷があります。小葱類は博多万能ねぎ中心に愛知・静岡産の出回りです。ほうれん草は岐阜・石川・群馬・静岡産の入荷となり、例年並みの入荷量を見込んでいます。レタスは兵庫（淡路島）・茨城産主体に下旬より長野産も加わります。ブロッコリーは前半に高知、九州産主体に中旬から石川産の本格出荷となり、最盛期を迎えるのは来月となりそうです。アスパラは長野・山形・新潟・石川産露地物がピークを迎えて、潤沢な出回りが期待されます。

果菜類の胡瓜は石川産主体に群馬・高知・愛知産の入荷です。愛知産は中旬に終了予定で、福島・山形産の入荷が加わります。高知産については今月一杯、もしくは来月上旬まで入荷があると思われます。加賀野菜の太胡瓜は中・下旬以降より入荷増となります。南瓜は中旬より鹿児島産の出荷が始まり、輸入品はメキシコ産となります。茄子は高知・愛知産の中茄子、熊本産の長茄子、大阪産の大茄子・水茄子、群馬産の中・長茄子と豊富な品揃えとなり、おすすめの一品です。トマトは愛知産主体に石川・九州各地からの入荷があり、県内産は下旬より増量となります。豆類については石川産千石豆（つるまめ）の入荷が始まり、インゲン・砂糖豌豆・スナック豌豆・そら豆等の潤沢な入荷があります。

菌茸類の椎茸・なめこ・えのきは石川産、しめじ類は長野産主体に順調な入荷を見込んでいます。

土物類の馬鈴薯は鹿児島・長崎産の入荷で、後半からは静岡産三方原男爵の入荷があります。玉葱は愛知産主体の入荷で大玉中心となる見込みです。生姜は高知産の入荷で、新生姜は下旬から4kg規格へと切り替わる予定です。

5月は前半の大型連休、中旬の母の日など各種イベントに併せて多彩な企画立案の上、販売拡大にご協力をお願い致します。

《野菜第三部部长 杉本智則》

果実の展望

新緑も鮮やかなゴールデンウィークを迎えて、行楽地は多くの人々で賑わうと思われます。今月の果実は九州産地施設物中心に順調な生育となります。西瓜は熊本産の大玉西瓜が前半はL、後半からは2L サイズ中心の玉流れでの入荷となります。小玉西瓜については5玉を中心として群馬県からの入荷となります。

メロン類の主力産地である静岡・高知産は昨年をやや下回る入荷予想となっているものの、品質については良好と見られます。アンデス・クインシー・ホームラン等の多種の瓜類が茨城、熊本より出回り連休前から増量となる見込みです。苺は主力産地の愛知産が昨年並みの数量が予想され、九州産は上旬にて終了となります。

いちじくは愛知産主力でハウス物の入荷で、入荷量は平年並みと予想されます。

枇杷は長崎産主力で L 中心の出回りです。上旬まではハウス物、中旬からは露地物に切替わり、本年は豊作年で数量的には潤沢にあります。

りんごは青森産のふじ、ジョナゴールド、王林主体の入荷で、36玉中心の玉流れとなります。産地在庫は少なく、入荷量は減少となって高値で推移すると思われます。

柑橘類では鹿児島産の紅甘夏が例年並みの入荷予定となっています。三重産のサンフルーツ等の入荷が予定されています。ハウスみかんは愛知産主力の入荷となります。九州産については中旬からの入荷となるようです。

桜桃は山形産佐藤錦主力の入荷となり、昨年より 1 週間程度出遅れ、母の日ギフトで増量する見込みです。

ハウス物のデラウエアは、中旬より大阪産の入荷を見込んでいます。岡山産のマスカット・オブ・アレキサンドリアは下旬から入荷が始まります。

輸入果実のバナナでは、フィリピン・南米産の順調な入荷が見込まれます。オレンジはネーブル種が大玉・中玉、バレンシア種は小玉傾向となりますが、どちらも安定した入荷が見込まれます。フロリダ産グレープフルーツは例年より早めの切り上がりが見込まれ、カリフォルニア産の入荷へと移行します。カリフォルニア産レモンは大玉を中心に安定した出回りが期待されます。パイナップルはゴールデン・スウィーティオ種の入荷が見込まれます。キウイフルーツはニュージーランド産がスタートし、ゴールド・グリーン共に大玉を中心に比較的安定した入荷が予想されます。カリフォルニア産チェリーは上旬においては早生種、中旬以降はピング種の入荷となり、現時点では順調な入荷が予想されます。その他、メキシコ産ハネジューメロン、タイ・メキシコ産マンゴー、チリ産レッドグローブの販売に加えて、ニュージーランド産の温州みかんなど変化のある商材が提供できるシーズンとなります。

今月はゴールデンウィークを迎えて、各種イベントも盛りだくさんに企画されると思われますので、積極的な販売をいただきますようお願い申し上げます。

《常務取締役（野菜本部長） 大西 信哉》